

漁師と学生がつなぐ海



外海地区活動組織 林 実

長崎大学全学ダイビングサークル

新垣咲希、大石直子、川床 愛



池島炭鉱

風光明媚な五島灘・角力灘

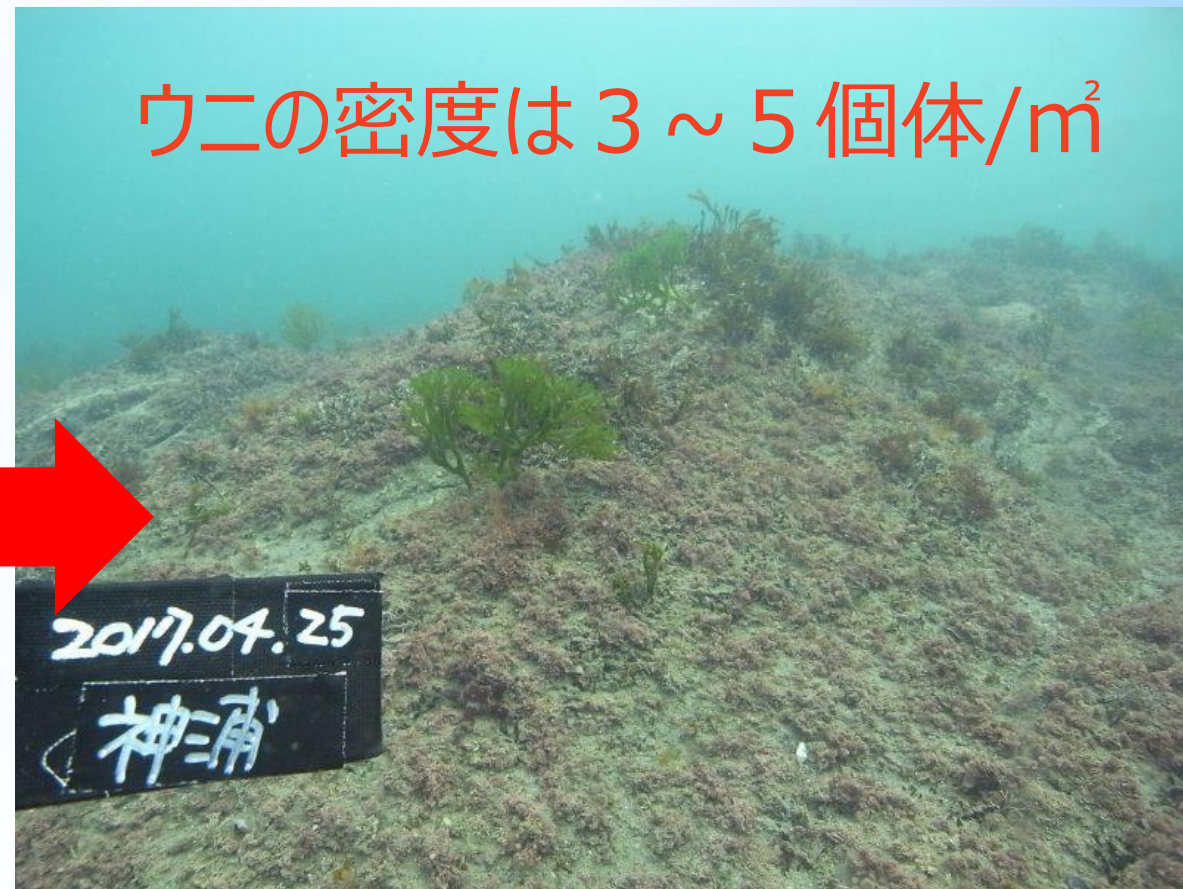


外海で獲れるお魚

キリシタンの歴史



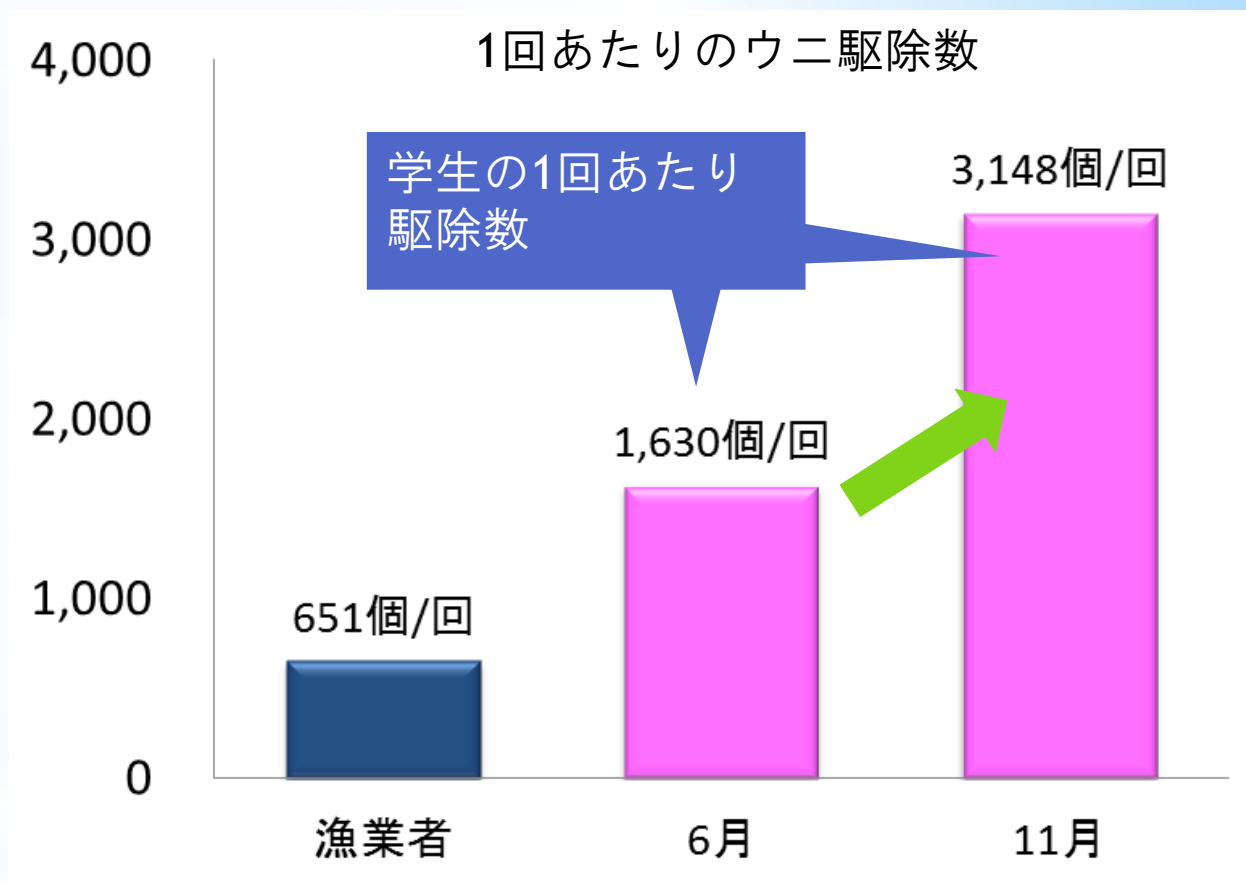
ヒーヒーロ
(地元のくんち)



漁業者の高齢化

磯焼け





※1回の作業時間は2.5h

- ウニの多さにとても驚き「磯焼け」の深刻さを実感できる貴重な体験となった。
- 11月はとても寒かった。



漁場を守れ ウニ駆除

長崎大 学生ダイバー5人

ダイバーだから出来る環境対策に取り組もうと17日、長崎大学の潜水をするサークルのメンバー5人が長崎市外海地区の漁場で、磯焼けの原因の一つ、ウニ類の駆除をした。

外海地区は約20年前までは、海底に海藻が生い茂る豊かな漁場だったが、ウニ類や魚類の食害などで海藻がなくなる磯焼けが発生し、問題になっている。

駆除に参加した5人は、ハンマーやウニカギと呼ばれる器具を手にし、水中でガンガゼやムラサキウニ約1600匹を駆除した。部長の新垣咲希さん(21)は「楽しむダイビングだけでなく、役に立つダイビングが出来て良かったです」と話していた。(写真は竹花徹朗)

デジタル版に動画

楽しむダイビングだけでなく、役に立つダイビングが出来て良かった！



長崎大学全学ダイビングサークル @nuzengakudiving · 6月19日

遠藤周作の記念館、綺麗な夕焼、海。そんな外海地区の環境問題に携わる貴重な機会をいただきました😊



サークルのツイッターで活動を紹介



5

21



この活動は朝日新聞、長崎新聞、水産経済新聞

向宏先生(北海道大学名誉教授)のメールマガジン「うみひろもNo201」でも紹介。

磯焼けのこと

- 「磯焼け」が日本各地で起こっていると知り驚いた。
- 世間でもあまり知られていない問題なのかもしれないが、非常に深刻な問題である。
- アワビを放流してもエサとなる海藻がなければ育たないことを聞いて藻場の重要性を感じた。
- ウニや海藻を食べる動物の数を減少させることが藻場の回復には重要であることを学びました。
- 自分のイメージで、長崎の海は資源豊かと思っていたが、話を聞いて想像以上に「磯焼け」が進んでいることを知り、なんとかしなければならなかったと思いました。

藻場を再生させるにはどうしたらよいか

- 「磯焼け」という現象を多くの人に知ってもらうことが大切である。
- 森の植林のように海藻を少しずつ私たちの手で植えて行けば、少しずつ再生していくのではないか。
- ウニ駆除だけでなく魚駆除を講じる必要がある。
- アイゴを釣っても海に戻さずに処分するように促すポスターを作ってはどうか。
- 海藻を食べる貝や魚を駆除できる生物を導入したらどうか。

今後の予定

漁業者

- 1月からは魚駆除対策を2月末まで行う。
- 2月末には養殖ワカメのロープを購入し、海面に吊り下げ胞子を放出させる種まきを行う。
- 学生にも参画してもらい来年度の計画づくりを行いたい。



学生



- 就活でウニ駆除の参加が難しいが、SNSを通じて磯焼けや活動を紹介するなどして間接的にでもサポートして行きたい。
- 長大全学ダイビングサークルが長くこの活動に関わり、活動を少しでも盛り上げたい。
- アイゴを使った料理を学園祭で出したり、スポーツと関連させる企画をしてみたい。

外海の藻場を再生させるまで、これからも頑張ります！

